

巡る診療所
飯田智哉
院長



☎ 011-686-1101

🌐 www.meguru.clinic

🏠 札幌市手稲区稲穂2条8丁目1-3

ビジョン

当院は、「巡る診療所」という名の通り、訪問診療に特化した診療所です。札幌市、石狩市、小樽市の三つの街を巡り、ご本人やご家族、地域の方々との巡り合わせを大切にし、その心に思いを巡らせて、満足度の高い在宅医療・緩和ケアを提供して参ります。

札幌市・小樽市・石狩市を診療圏に、地域の在宅医療を支える「巡る診療所」。2024年11月の開院以来、ゼロから出発しながらも、訪問診療を通じて多くの患者・家族、医療介護関係者との信頼を築いてきました。居宅ではがん末期の方などへの緩和ケアにも力を入れ、北国の厳しい気候や広域移動という課題に向き合いながら、ニーズに応える医療を実践しています。今回は飯田智哉院長に、開院からの歩み、地域で果たす役割、そして予防から看取りまでを支える新たな拠点構想について伺いました(2026年4月取材)。

札幌市・小樽市・石狩市を支える訪問診療へ。

2024年11月に「巡る診療所」をスタートされてから約1年が経過しました。開院当初の状況について教えてください。

スタート時は、まさにゼロからの出発でした。以前の勤務先から患者さんを連れてくるといったことは一切せず、私を含めて医師1名、看護師1名、相談員兼事務員2名の計4名という最小限の体制で産声を上げました。

開院前は多くの医療機関や訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所へ直接ご挨拶に伺い、チラシを配布したり、国道沿いに看板を設置したりといった広報活動に注力しました。

以前から札幌市内の清田区などで訪問診療に携わっていたこともあり、顔や名前を覚えてくださっていた方々からの後押しもあって、初月から多くのご紹介をいただくことができました。



そこから現在に至るまで、利用者数やスタッフ体制はどのように変化しましたか。

ご紹介のペースは、最初の数ヶ月は月に30名から40名ほど、現在は少し落ち着いたものの、毎月20名から30名ほどの新しい患者様とのお縁をいただいています。

スタッフ数も大幅に増え、現在は看護師が常勤で4名、事務員が2名、さらに相談員が2名となり、全体で10名近い組織へと成長しました。

患者数は、居宅の方が150名、施設の方が250名の計400名に

達しています。今年の6月からは非常勤の先生が1名加わる予定ですが、それまでは私一人が400名の患者様を診ている状況です。土曜日もフル稼働し、日曜日も半日は訪問に充てていますが、地域に必要とされている実感があります。



診療エリアについても、かなり広範囲をカバーされているそうですね。

私たちがこの場所で開院した大きな理由の一つに、札幌市だけでなく、隣接する小樽市や石狩市の三市を網羅したいという強い思いがありました。現在はその構想通り、札幌市、小樽市、石狩市の広範囲で訪問診療を行っています。

特に石狩市などのエリアでは、クリニックから半径16キロを超える場所に患者様がいらっしゃることも少なくありません。他に伺えるクリニックがないため、効率は決して良くありませんが、土曜日や日曜日を利用して私が直接伺うようにしています。

札幌市・小樽市・石狩市で応える訪問診療と緩和ケア。北国の厳しい環境で貫く地域医療

現在の具体的な診療内容について教えてください。

施設では認知症の患者様が中心ですが、居宅ではがん末期などで緩和ケアを必要とされている方々を多く診ています。開院初年度は、11月からの1年間で62名の看取りをお手伝いさせていただきました。

今年度はさらに増え、80名から100名近い方々の最期に寄り添う見込みです。年齢層も幅広く小児から大人へ移行する時期の方から超高齢者の方まで軽症・重症を問わずあらゆるニーズに応える「なんでも屋」の在宅医でありたいと考えています。



地域での活動の中で、特に印象に残っているエピソードはありますか。

開院して半年ほど経った2025年の夏、かつて日本医師会でも功績を残された大先輩の医師を担当させていただいた時のことです。

実はその先生、私が幼少期に関わりがあった方で依頼が来た時は不思議な巡り合わせを感じましたね。私は日頃から「患者様のニーズに応える」ことを最優先にしていますが、先生は「朝一番に来てほしい」と希望されていました。当院の始業は9時ですが、看護師も私の想いを理解して協力してくれ、毎回8時30分に必ず訪問して緩和ケアを継続しました。

その先生の最期と、ご家族との関わりについてお聞かせください。

がん発覚から3ヶ月後、先生はご自宅でご家族に囲まれながら、穏やかに息を引き取られました。驚いたことに、後日、北海道新聞に掲載された先生の訃報広告の中で、ご子息が「巡る診療所に本当にお世話になった」という感謝の言葉を添えてくださったんです。

わずか数行の限られたコメント欄に私たちの名前を入れてくださったことは、開院して間もない私を応援したいというご子息の温かいお気持ちもあったのだと思います。地元に近い場所で、地域医療に携わる意義を改めて深く噛み締める出来事となりました。

北国ならではの訪問診療の苦労も多いのではないのでしょうか。

圧倒的に大変なのは、やはり冬の雪道ですね。札幌市では12月から3月までの訪問が非常に厳しくなります。夏場なら10分で到着する場所でも、冬は除雪の影響で道幅が狭くなり、大渋滞が発生するため30分以上かかることが珍しくありません。

2車線道路が雪壁で1車線になってしまうこともあり、スケジュール管理には細心の注意が必要です。私自身も...



続きはQRコードからアクセスしてください → → →